



## 医学部同窓会会長に就任して

河 嶋 寛 (医学部第 18 期卒)

会員みなさん、この度、伝統ある岩手医科大学医学部同窓会の会長に選出されました河嶋と申します。今、その責任の重さを改めて感じています。私のような浅学菲才の人間に会長職が務まるかどうか不安がない訳ではありません。しかし、精一杯頑張ることが私に課せられた任務と思い、遥か医専の先輩や熱くご指導頂いた先輩方にしっかりと報告できることを誓うことで会長職をお引き受けすることにしました。何やら「カワシマ！しっかりやれよ！」という声が飛んで来そうです。

母校は、発祥の地である内丸地区と、先進医療の地としての矢巾地区、の両地区の特性を生かして発展することを明確な方針としました。医学部、歯学部、看護学部、薬学部の四学部が有機的（化学反応を起こすような）に連携して医学、医療を学ぶ教育体制を確立しました。この恵まれた環境を学生たちがどのように受け止めて行くか。若い研修医がどのように経験していくか。これからの時代を先導しなければなりません。それは、学祖三田俊次郎先生が目指し、学是となった“誠”の医療を学び、実践することにあります。明治、大正、昭和にかけて岩手の風雪の時代を支えて来たのは医師であり、看護婦（助産婦）でした。これからは、四つの学部が、それぞれに具体的な目標を持って母校の歴史を作ることになります。中でも、医学部はその中心的存在として低迷は許されません。国家試験レベルでつまずいてはられません。幸いなことに関係者の努力によって近年の国家試験の成績は上位を占めることになりました。非常に嬉しいことです。医学部同

窓会評議員会での熱い発言が大学当局を動かすひとつのきっかけとなったことは言うまでもありません。母校の窮状を救わんとして様々な提言をしてくださった同窓会会員諸兄には改めて御礼申し上げます。もちろん、今まで行っていた在学生への支援は必要不可欠のものとして今後も続けます。他の三つの学部が「医学部を見習え、を合言葉にし、それぞれの成果を上げることで、母校全体の発展につながることを願っています。

医学部同窓会は母校を支えるために存在します。したがって、圭陵会の副会長を自動的に務めることになります。（他の三つの同窓会長も同じです。）その意味で、圭陵会会長を支えて参ります。圭陵会もさまざまな問題に直面していますので、少しでもお役に立てば幸いです。全国の卒業生の声が母校を動かします。額の多少にかかわらず、卒業生の寄付が母校の財政的基盤の一助となります。新しく役員になった方、引き続いて役員を受けてくださった方には、苦言でもなんでもお受けしますのでこれからどうぞよろしく願い申し上げます。

全国会員みなさんのご指導、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。就任の挨拶とさせていただきます。一日でも早くみなさんに対面でお会いする時を楽しみにしています。（完）

2022, 7, 18